

③菅野 澄枝氏

(仙台市地域防災リーダー（SBL）、岩切・女性たちの防災宣言を作る会世話役）
～女性の防災宣言、そして女性の防災リーダーへ～

岩切は農家や新興住宅が立ち並ぶ地区です。東日本大震災では津波の被害こそありませんでしたが、家屋の倒壊等大きな被害を受けたところです。

震災の一年前、中学校のPTA会長だった菅野氏は、当時の宮城野区長に声を掛けられ、区の総合防災訓練に向けて防災宣言をつくることになりました。「お年寄りや赤ちゃんのいるお母さん、障害のある人・・・本当に来て欲しい人たちに訓練に参加して欲しい」という思いで、集まったメンバーとともにワークショップを重ねました。そして、「“私たちは忘れない” 未来を創る大切なあなたと共に歩き続けます」という内容の宣言をつくりあげました。

平成23年3月、東日本大震災が起こった時、一緒に宣言をつくった仲間が「宣言どおりに動きたい」と避難所に集まってくれました。しかし、当時自分には知識と判断力がなかったため、多くの仲間が傷つきました。リーダーになることと防災を学ぶことは別のことだと分かりました。リーダーとして判断する力を身につけないといけないと気づき、女性防災リーダー養成講座を受講しました。身に付いたのはコミュニケーションスキルです。大切なのは次世代に伝えることです。子供たちが自分たちの町に何かできることに誇りを持ってもらいたいと思います。

仙台地域防災リーダー（SBL）は連合町内会に5名です。防災・減災を啓蒙することや避難所での指導が主な役割です。初めの頃はなかなか周りに理解してもらえませんでした。防災リーダーとして活動を継続することで、地域の人が認めてくれるようになりました。今年は何度か大雨避難勧告がありましたが、小中学生やお母さん達が自ら何かできないかと声をかけてきてくれました。誰かのために何かをするというのが4年間の学びだったのかもしれない。

避難所運営マニュアルは、単に配られているだけではなく、判断のよりどころとして機能しています。避難所運営については、たくさん勉強もしたし、色々な方に育ててもらいました。何かあったときは、命を守る行動をしないといけません。「大切な人を増やしていく。」岩切の人達にこの思いを伝えていきたいと思います。

講義後、「岩切・女性達の防災宣言」の朗読

※岩切地区で実施（作成）したもの：岩切・女性たちの防災宣言、防災カルタ、中学生ちょボラ隊

